

子どもを支える仕事 | Chapter.3: 子どもを支える仕事10

04

自然体験型保育室運営

なぜ「子どもと自然」をテーマに活動しているんですか？

地元の保育園に勤めていた頃、5歳児を何もないグランドへ連れていったことがありました。最初は戸惑っていたのですが、気づけば自由に走り回り、木を拾ったりしました。ただ自然があるだけの場所の方が子どもたちも豊かに遊べるんだと衝撃を受けました。それを機に、「子どもと自然」をキーワードにした理想の幼児教育の在り方を模索しようと思いい、カナダへ行き、現地の保育施設でスタッフを体験したり、帰国後はインターナショナルスクールに勤めたり、自然ガイドや自然学校職員などを経験。そんな中で出会ったのが「森のようちえん」という幼児の野外教育です。

「森のようちえん」とは
どういうものですか？

「森のようちえん」とは自然の中で、自由に遊びを体験させることで、子どもが本来持っている力を引き出していき、北欧で生まれた保育スタイルのこと。すでに日本各地でこの概念に基づく幼児の野外教育が実践されています。私も「やりたかったのはまさにこれだ！」と思いました。2年前から「NPO法人もあなキッズ自然楽校」に所属し、「森のようちえん」というスタイルを広める活動をしていたのですが、拠点を持った方がいいと考え、家庭的保育

室「もあな・小さな木」を立ち上げました。所属するNPOが経営を担当、私は園長として実質運営を担当しています。

また、土日には各地へ出向き、「森のようちえん」を実践できる指導者育成にも力を入れています。各保育施設でも導入していただきたいと思いい、実践マニュアルも作成しているところです。

「もあな・小さな木」とは
どんな保育室なのですか？

「家庭的保育事業」という国の制度に基づく、定員最大9名の保育室です。特に「もあな・小さな木」は対象を0歳児から2歳児とし、「森のようちえん」のプログラムに準じた、自然体験活動型保育を展開しています。預かっているのは朝7時30分から最大夜8時までですが、毎日午前と午後各1時間、近くの緑道や小川へ連れていき、自由に遊びます。

そんなに小さな子どもでも
外で自由に遊ぶんですね

0歳児でもハイハイしながら土手を登ろうとします。泥で滑つてうまくいかなくても子どもにとつてそれは失敗ではなく遊びなんですよ。しかも、登りきることでできれば、自分でわかるのかとても嬉しそう顔になります。雨が降ってくる時も言わなくても勝手に木の下に隠れたりします。自然の中でそんなふういろいろ

子どもと接する上で
心がけていることは？

乳幼児は過去や未来はなく、この瞬間を全力で生きています。だからこそ「昨日はこうだったから」と思わず、今何に興味を示しているかをよく観察し、その子に合った声掛けをするよう心がけています。

なるには？

子ども対象の自然体験活動に興味があるなら、全国各地の自然学校でボランティアとして関わって、まずは体験するのがお勧め。保育園で働きたい、将来的には自分の理想とする家庭的保育室や保育園を立ち上げたいと思うなら、保育士や幼稚園教諭免許状を取得しておいた方がいいだろう。

0歳～2歳児を
自然の中で遊ばせ
生きる力を育てたい

横浜市認定家庭的保育室もあな・小さな木保育園
森のようちえん全国ネットワーク運営委員
野村直子氏

のむら・なおこ●1973年生まれ。東京都立武蔵村山高校卒。私立保育園勤務、自然ガイドなどを経てNPO法人もあなキッズ自然楽校に勤務。今年4月より家庭的保育室「もあな・小さな木」園長に。

